

2014年1月10日

各位

オリックス不動産株式会社

## 関西初<sup>\*1</sup>、歴史的建造物の外観を生かした分譲マンション 『グランサンクタス淀屋橋』 大阪市「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」に選定

オリックス不動産株式会社(本社:東京都港区、社長:山谷 佳之、以下「オリックス不動産」)は、関西で初となる歴史的建造物の外観を生かした分譲マンション『グランサンクタス淀屋橋』(大阪府中央区、地上13階地下1階建、総戸数60戸、他店舗1戸)が、大阪の新しい魅力を創造・発信する大阪市の取り組み「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」に選定されましたのでお知らせします。

『グランサンクタス淀屋橋』は、歴史的建築物である旧大阪農工銀行ビルの外壁の一部を歴史・文化的景観保存のため「曳家(ひきや)工法」により同じ敷地内のマンション建設地点まで移動し、原形のまま再利用する取り組みを行いました。外壁部分の再利用を図った旧大阪農工銀行ビルは、明治・大正期の建築家・辰野 金吾(たつの きんご)が創立した辰野片岡建築事務所の設計により大正7年(1918年)に竣工し、昭和4年(1929年)の建築家・國枝 博(くにえだ ひろし)による改修を経て、約一世紀にわたって大阪の歴史的な名建築の一つとして市民に親しまれてきました。外壁は、正面部分(ファサード)にイスラム建築に見られる華麗な唐草文様やアラベスク文様が施され、近代建築の醍醐味である建物のコーナー曲線が美しく保存されています。

今回、「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」の選定において、曳家という大掛かりな工法を用いて歴史的建築物の新しい再生・活用のあり方を提唱し、元の建築が持つ魅力を新たな用途に融合させ、維持・継承した先駆的な事例である点が評価されました。

今後もオリックス不動産は、これまで親しまれてきた歴史や文化を生かして新たな魅力を見だし、多様で豊かな都市の創造となりうる取り組みを推進してまいります。



以上

\*1 有限会社 MRC 調べ。大正～昭和初期の近代建築の外壁を残し、新築建物の外壁の一部として活用した分譲マンションは、関西初となります。

### 【本件に関するお問い合わせ先】

オリックス不動産株式会社 社長室 永井・岡弘・石井  
TEL : 03-5418-4313

## ■物件概要

名 称: グランサンクタス淀屋橋  
所 在 地: 大阪市中央区今橋 3-2-2  
交 通: 大阪市営地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅より徒歩 3 分  
京阪電鉄京阪本線「淀屋橋」駅より徒歩 3 分  
大阪市営地下鉄堺筋線「北浜」駅より徒歩 5 分  
京阪電鉄京阪本線「北浜」駅より徒歩 5 分  
用 途 地 域: 商業地域  
敷 地 面 積: 774.13 m<sup>2</sup>  
建 築 面 積: 486.79 m<sup>2</sup>  
建築延床面積: 5665.62 m<sup>2</sup>  
構 造 ・ 規 模: 鉄筋コンクリート造/地上 13 階、地下1階建  
建築確認番号: BCJ11 大建確 024(平成 23 年 7 月 27 日) BCJ11 大建確 024 変 1(平成 24 年 2 月 16 日) BCJ11 大建確 024 変 2(平成 24 年 4 月 24 日)  
総 戸 数: 60 戸(他、店舗1戸)  
専 有 面 積: 56.09 m<sup>2</sup>~78.83 m<sup>2</sup>  
間 取 り: 1LDK+N+ロフト~2LDK+N+ロフト  
バルコニー面積: 4.56 m<sup>2</sup>~12.32 m<sup>2</sup>  
駐 車 場: 機械式 10 台(月額利用料:36,000 円~40,000 円)  
駐 輪 場: 60 台(月額利用料:200 円~300 円)  
バ イ ク 置 場: バイク 2 台、ミニバイク 6 台(月額利用料:1,000 円~2,000 円)  
分譲後の権利形態: 専有部分は区分所有権、共有部分は専有面積割合による所有権の共有  
管 理 形 態: 区分所有者全員により管理組合を結成し管理会社に委託予定  
事業主(売主): オリックス不動産株式会社  
設 計 ・ 監 理: 株式会社 IAO 竹田設計  
施 工 会 社: 鹿島建設株式会社  
販売提携(代理): 株式会社プロヴァンスコーポレーション  
管 理 会 社: 株式会社大京アステージ

## <「生きた建築ミュージアム」概要>

本事業は、大阪府市の都市魅力創造戦略(平成 24 年 12 月策定)における重点エリアのマネジメント(御堂筋フェスティバルモール化)の主要プロジェクトの一つに位置づけられたものです。御堂筋エリア全体を一つの大きなミュージアムと捉え、そこに存在する「生きた建築」(さまざまな形で変化・発展しながら、生き生きとその魅力を物語る建築物の新しい概念)を通して、多様で豊かな都市の物語性を大阪の新しい魅力として創造・発信しようとする取り組みです。

生きた建築ミュージアム事業について

<http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000222838.html>